

自然にもどろう

(原文)

小田 向日葵 (9 歳)

福岡県

西南学院小学校

自然を守るというのは、どういう事をいうのだろうか。人間の考えだけで、生活をゆう先させて、動物の生活かんきょうや、自然かんきょうをこわしてきてしまったことは知っているけど、どうしてそんなことをしなければならなくなってしまったのだろうか。

わたしは、神様がお作りになった世界が、自然の本来のすがたなのではないかと思う。動物も植物も弱い者は数多く生まれるけど、食べられたり、絶滅したりしていき、強い者は進化しながら生き残っていく。人間も神様がお作りになった生物の一つとして、自然の中で生きてきたけど、知のうと道具が使えたばかりに、地球を人間のためにどんどん変えてしまった。変えてしまったのは、地球かんきょうだけではないと思う。

神様があたえてくださった人間の生きる力を、人間は医りょうという知しきを使って大きくしてきた。家族が長生きしてくれることはうれしいことだけど、自然でいることを思えば、生まれるはずのなかった命が生まれ、消えるはずの命がのびていくのは不自然に感じてしまう。ふえすぎてしまった人間は、山を切り開き、海をうめ立てるだけではまん足できず、住みやすく生きやすいことをゆう先して、世界を変えてしまった。

わたしのひいおばあちゃんは、85才でなくなった。病気にかかることもなく、人間という生き物としての電池が切れて自然になくなったから、「はあ」とためいきをつくように大きくいきをはいてなくなったひいおばあちゃんは、自然な死をむかえてホッとしたんだと思う。

将来お医者さんになりたいわたしは、いたみややわらげたり、早く回ふくするように手助けはしたいけど、神様の望まない世界を作ってしまうようなちりようは、しないほうがいいと思う。

こわしてしまった自然をとりもどすために、木を植えたり、しげんを使いつくさない努力をしたりするのは、自然をこわしてしまつたつぐないとして、ぜったいに取り組んでいかなければならないこと。その一方で、神様がお作りになった世界の「本来のすがた」を学んでいくことが、これからのわたしたちには必ようなんだと思う。

今でもこわされずに残っている自然には、人は心をひかれる。そんな心を持っていることにホッとする時がある。オーストラリアのspringブルック国立公園で見た土ボタルは、暗いどうくつの中から星空に飛び出してしまったような世界が広がっていて、これが自然なんだなとしみじみ思った。

自然は生命にかかわることだけがうまくいっているのではなく、心をゆたかにする力も持っている。
この世界の本来のすがたを目指して、人間もくらしやすい世界を作っていけるよう、たくさん学んで
いきたい。